

キャリアセンター企業等就職支援室における実践報告

Practical Study that Job Assistance in Career Center

キャリアセンター
中村 潤子
NAKAMURA, Junko
Career Center

キャリアセンター
平山 優貴
HIRAYAMA, Yuki
Career Center

次世代教育学部教育経営学科
杉田 郁代
SUGITA, Ikuyo
Department of Educational Administration
Faculty of Education for Future Generations

1. はじめに

環太平洋大学は、2学部5学科で構成され、1,400名弱の学生が在籍している。在籍学生のうち8割の学生が体育会系部活動に所属しており、学業との文武両道を実践している。全学の学生のキャリア・就職支援を行っているのが、キャリアセンターである。キャリアセンターは、希望進路に合わせて4つの分室を設定しており、より具体的な就職支援ができるよう取り組んでいる。

本学では、入学直後のオリエンテーション時から、正課授業の中に「キャリア形成支援」を導入し、1年次から4年次にわたって長期的に実施し、キャリア教育を行っている。自らの将来設計を考えるとともに、将来設計を考えることを目的に外部講師を招いて実際の企業や学校現場の様子や現在抱える課題、仕事へのやりがい等について話を聞く場を設けている。

キャリアセンターは、正課授業の取り組みを通じて「働くことの意識を醸成した学生」を、希望の進路に進むことができるように正課外の側面から支援する役割を担っている。

平成24年度は、就職に関して、経団連の倫理憲章や大学設置基準の改正等の流れを受けて、これまでの就職支援とは少し異なる年度であることから、その新しい流れを受けた取組の支援状況を述べていく。

2. 大学をめぐる就職支援の現状と動向

(1) 大学設置基準の改正

2010年2月に大学設置基準第42条の2の条文が改正された。「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生指導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」(大学設置基準, 2012)。これによって、大学教育において、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を教育課程内と厚生指導を通じて培われる取組みがなされるようになったと言えるのではないだろうか。本学においても、教育課程内では、キャリア教育が取り入れられ、厚生指導は、キャリアセンター等における就職支援がなされ、教育課程内外において両輪の取組みがされるようになった。

(2) 経団連の倫理憲章

2011年3月に日本経済団体連合会が、「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」を出した。これは、通称「倫理憲章」と呼ばれ、採用選考活動の早期開始の自粛等を記載している。活動とは、企業が業界情報や企業情報などを学生に対して広く発信する活動のことを指し、ミスマッチによる早期離職の防止の意味を含めて行っている。選考活動は、採用基準に達した学生を選抜することを目的とした活動である。

倫理憲章によって、大きく変わったことは2点あ

る。一つ目は、広報活動の開始時期の見直しである。これによって、卒業・修了学年前年の12月1日以降に開始されることになった。12月前に行うことができる活動は、不特定多数に対して向けたもののみである。二つ目は、採用活動は、卒業・修了学年の4月1日以降に開始するとされた。本格的な採用活動開始は、卒業年次に入った時点となったのである。

(3) 学校基本調査の調査項目の追加

平成24年度の調査より、これまでの就職者に「正規の職員等でない者」を区分した。それによって、正規職員と正規職員等でない者に分けて把握できるようになった。その結果は、就職者35万7千人のうち、2万2千人は「正規の職員等でない者」であり、卒業者に占める割合は3.9%であった。この調査によると、平成23年度の大学卒業者の就職者のうち、「正規の職員等でない者」と「一時的な仕事に就いた者」、「進学も就職もしていない者」を合算すると、12万8千人となり、安定した雇用に就いていない者の卒業者に占める割合は、22.9%であった。

これまでの調査項目では、就職者の数値であったが、「正規の職員等でない者」の項目を追加することによって、就職はしているが安定した雇用に就いていない状況が浮き彫りにされたと言える。

(4) 大卒の離職率

新規学校卒業就職者の在籍期間別離職状況
(厚生労働省, 2012)

卒業	3年目までの離職率 (%)	1年目	2年目	3年目
平成23年3月	14.3%	14.3%		
平成22年3月	23.3%	12.5%	10.7%	
平成21年3月	28.3%	11.5%	8.9%	8.4%
平成20年3月	30.0%	12.2%	9.5%	8.3%
平成19年3月	31.1%	13.0%	10.4%	7.7%

厚生労働省の調査によると、大卒の3年目までの離職率は、就職者のうち3年目までに30%前後の者が離職している。そのうち、1年目までに12%前後の者が離職をしている。離職の背景についてまでの調査はさ

れていない。

先に挙げたように卒業者のうち2割の者が、正規雇用として職を得ないままに卒業し社会に出ている現状がある。また、就職者のうち3年以内に離職する者が3割程度いることから、教育課程内のキャリア教育に加えて、課程外の就職支援体制による個別支援が急務ではないだろうか。

3. 環太平洋大学キャリアセンターの概要

本学キャリアセンターの、もっとも大きな特徴として揚げられるのは、「個別支援の徹底」である。3年生の後期に開講される必修科目「キャリアデザイン」は、希望進路によって4グループに分かれて行っており、キャリアセンターの4分室（教職支援室・小中高分室、教職支援室・幼保施設分室、公務員就職支援室、企業等就職支援室）がそれぞれのキャリア支援プログラムを実施している。この必修授業での学生との関わりと同時に、各分室が個別相談業務を担当しているほか、独自の取組みを展開している。

小稿では、4分室のなかから「企業等就職支援室」が行った実践について報告する。

4. 企業等就職支援室の取組み

(1) 翔志会活動

本学には、教員採用試験受験者を対象とする特別講座の「大志会」と、公務員試験受験者を対象とする特別講座の「立志会」が存在する。今年度は新たに、企業就職希望者のための取組みとして「翔志会」を立ち上げた。

目的として、①就職活動早期（4年生春）に、第1志望企業（上場企業、人気ランキング上位企業など）からの内定獲得 ②学年全体が就職活動に取り組む囲気をけん引する、少数精鋭学生集団の育成の2点を掲げた。

①定例会

3年生を対象に、後期より活動を開始。毎週月曜5限に「定例会」を実施している。プログラムは次のとおり。

【翔志会定例会の内容】

	実施日	内容	講師・ゲスト	参加人数
1	10/1	講演「与える心」を知る	株式会社パソナ岡山 経営企画室	11名
2	10/15	からだで覚える就活ABC (ゲーム形式)	中村, 平山 (キャリアセンター職員)	12名
3	10/22	自己PRを深めるワークショップ	キャリア救急センター 片岡佑之氏	16名
4	10/29	キャリアカフェ①	はるやま商事株式会社法人課課長 (大学担当)	8名
5	11/5	業界研究を深めるワークショップ	キャリア救急センター 片岡佑之氏	6名
6	11/13	キャリアカフェ② 「各業界の求める人材像」 ～菓子メーカー, スポーツ～	カバヤ食品株式会社/株式会社岡山スポーツ会館	12名
7	11/19	キャリアカフェ③ 「学生の就職支援という仕事」	株式会社マイナビ	7名
8	11/26	キャリアカフェ④ 「就活のプロに聞く」	株式会社シーズ 学生支援チーム	7名
9	12/3	キャリアカフェ⑤ 「各業界の求める人材像」 ～カーディーラー, スーパー～	株式会社日産サテリオ岡山/株式会社エブリィ	10名
10	12/10	キャリアカフェ⑥ 「卒業生が語る, IPUの強み」	卒業生 (カバヤ食品株式会社/株式会社栄光スポーツ)	9名
11	12/17	キャリアカフェ⑦ テーマ「広告代理店の営業職」	株式会社ビザビレーションズヒューマンネットワーク本部 /株式会社ビザビコミュニケーションズ	7名
12	1/21	模擬グループディスカッション	中村, 平山 (キャリアセンター職員)	
13	1/28	模擬面接	株式会社リクルートキャリア	

【定例会参加者の感想】

- ・どれだけいい経験をしていても、それを話せたり書けたりできなければ意味がないと学んだ。頭の中のことを言葉にできるよう練習したいと思う。
- ・自己分析は大変というイメージを持っていたが、今日の話聞いて自分にもできると思った。「就活の敵は自分」という言葉が印象的。弱い自分に打ち勝って、夢をかなえたい。
- ・はるやま商事の福島さんから、「仕事観と軸」についての話を聞いた。「らしさ」が必要とされる社会で自分の軸を貫くのは大変だけど、私も今のうちから自分の軸を作っていきたい。
- ・「役割」ということについて深く考えることができた。自分の役割を探しながら働くということは、ゴールで完結する目標ではなく人のためにずっと続けていける目標を持つことだと思う。どんな立場になっても、全力を尽くしてがんばりたい。
- ・「相手をほめるコツ」が、志望動機につながると学んだ。今後の企業研究に生かしていきたい。
- ・片岡先生のおかげで自分に自信が持て、就活が楽しみになってきた。
- ・業界や職種が違っていても、仕事に対する思いや考え方はあまり変わらないのだなと感じた。
- ・自分には行動する勇気が足りないと感じている。求める人材 = 「発想がよく自ら動ける人」ということを学んだので、行動に移していきたい。
- ・当たり前のことを当たり前に行い、「熱意」や「感謝」の気持ちを持って就活に臨みたいと思う。
- ・合同企業説明会の参加の仕方が今ひとつ分かっていなかったが、今日のお話を聞いてよく理解できた。
- ・最終的に自分が働く会社はひとつだけど、就活した分だけいろいろな会社に出会えるし、いろいろな考え方・生き方に触れることができると学んだ。
- ・就活に対していまだに「嫌なもの」という認識だったが、先輩の話聞いて楽しみになってきた。企業側も「欲しい人材を必死で探している」という言葉が心に残っている。
- ・面接の質問にはすべて意味があると知り、それを理解しながら答えることが大切だと学んだ。
- ・焦って企業を決めてしまうと、早期に辞めてしまうことが多いと聞いた。本当に自分のやりたいことを見つけて、この先、長い期間、働けるような会社を探していきたい。
- ・営業職の大変さとおもしろさを聞くことができた。達成感の話聞いたおかげで、就活がんばろうと思えるようになった。
- ・営業職に対するイメージが変わった。自分のやりたい仕事を探すというのもいいが、就いた仕事を好き

になるという方法もあるんだと思う。

②翔志会合宿

翔志会への帰属意識と仲間意識の醸成ならびに、長期より意識を高めることを目的として、合宿を以下の要項で実施した。

- ・日程：10月12日（金）18:00～13日（土）17:00
- ・場所：第1キャンパス宿泊棟
- ・内容：

1日目

演劇手法を使ったグループワーク

／フリートークタイム

2日目

講座第1部

「就活迷子にならないために～2014年の春、夢を叶えるためにすべきこと～」

講座第2部「自己PRって何だ？ ～自分は、社会人適性を持っている？～」

- ・講師：1日目 中村（キャリアセンター職員）
2日目 キャリア救急センター 片岡佑之氏
- ・参加者：5名（男子3名，女子2名）
※1日目には、4年生内定者2名がスタッフおよび助言者として参加

【合宿参加者の感想】

- ・さまざまなグループワークを通して、個人を表現する基盤を学ぶことができた濃密な時間だった。自分

には強みがたくさんあると分かったので、自信を持って行動していきたい。何度落とされても、自分のよさを認めてくれる企業がきっとあると信じて活動していきたい。

- ・少人数だったからこそ、グループワークでは全員が発言できたし、5人ともが主体的に関わることができたのだと思う。12月のスタートまでにしっかり準備をして、自分が納得できる就職活動をしていきたい。
- ・片岡先生の「仕事とは、いつか出会う大切な人を守るため」という言葉に感動した。3つの基本である「カタチ」「中身」「情報」をしっかり作って、第1志望業種から内定をもらえるように努力していく。
- ・ありのままの自分を表現することが大切だが、そのためには人柄や人間性を磨いて立派な社会人となるよう努力を続けたい。
- ・面接の練習では、緊張で足が震えて話したいことがうまくまとまらないという経験をした。今後は練習を重ねて、本番ではバッチリ決めてみせる。「夢」についてみんなの本音を語り合ったのは、自分自身の刺激になった。ここで出会った仲間とともに、励ましあって頑張っていきたい。

③各種ミニ講座

定例会だけではフォローできない、いわゆる「ノウハウ」の部分などについては、学生要望を拾いながら

【キャリアデザインの講義内容】

回数	実施日	内容	講師
1	9月24日	全体会	
2	10月1日	「働く」をイメージする	株式会社パソナ岡山 経営企画室
3	10月15日	学長講話	中原 忠男学長
4	10月22日	自己分析の重要性	キャリア救急センター 片岡佑之氏
5	10月29日	身だしなみとマナー	はるやま商事株式会社
6	11月5日	仕事研究	キャリア救急センター 片岡佑之氏
7	11月13日	業界研究①食品メーカー／スポーツ業界	カバヤ食品株式会社／株式会社岡山スポーツ会館
8	11月19日	いよいよエントリー	株式会社マイナビ
9	11月26日	合説の歩き方／4年生の話をお聞き	シーズ株式会社
10	12月3日	業界研究②カーディーラー／小売・流通	株式会社日産サテリオ岡山／株式会社エブリイ
11	12月10日	卒業生パネルディスカッション	卒業生（カバヤ食品株式会社／株式会社栄光スポーツ／株式会社創心會／株式会社インターナカツ／セキスイハイム中四国株式会社）
12	12月17日	仕事研究（営業って？） パネルディスカッション	【進行】株式会社ビザビレレーションズ【パネラー】株式会社近畿日本ツーリスト（旅行）・（卒業生）／株式会社ビザビコミュニケーションズ（広告）・（卒業生）／岡山トヨタ自動車株式会社（自動車販売）／ミサワホーム中国株式会社（住宅）
13	1月7日	エントリーシート、履歴書	株式会社マイナビ
14	1月21日	理事長講話	大橋 博理事長
15	1月28日	面接	株式会社リクルートキャリア

少人数でも回数を多くミニ講座を実施する。

【内容】SPI対策, メイクアップ, 履歴書, エントリーシート, グループディスカッション, 面接そのほか。合計50回以上実施(2012年12月~2013年10月頃)必修授業「キャリアデザイン」の取組みキャリアセンター・企業等就職支援室では、企業就職を希望する3年生(後期)を対象に以下の支援プログラムを必修科目「キャリアデザイン」において実施している。今期の受講者は166名。

ただ単に、就職活動のノウハウを身につけるというものではなく、まずは働くことの意味や意義を見出すことを出発点とし、自分の将来を「デザイン」できるようになることを目指す。また、できるだけ多くの「働く人」の話聞き、その人たちの考え方に触れることによって、自分の視野と価値観を広げることの重要性への気づきを重視する。

【キャリアデザイン受講者の感想】

- ・「人間は誰もが何か役割を持って生れてきている。働くということは、その役割を果たすこと」という言葉に驚いた。私も自分の役割のために働きたいと思う。
- ・人間性を磨くことで、自分が本当に行きたい企業に就職できる可能性が広がる。今まではスポーツばかりやってきて自分の将来について真剣に考えたことはなかったが、これからは目標に向かって進んでいきたい。自分のためだったら途中で投げ出してしまうが、他人のためだったら壁にぶつかってもがんばれる。
- ・なんのために働くのかということの答えは、「幸せな人生のため」につながり、それは「周りの人から必要とされる人生」でもある。そうなるために、目的を持っておくことが大切だと感じた。
- ・成功のカギは見えない部分にあるという話のなかで「普段のことが大事」と言われたときに、今自分たちがやっている「挨拶」などは無駄ではない、これからの自分のためにあるんだと思った。
- ・会社に入ることが目的なのではなく、入社して人から必要とされることが幸せなのだと感じた。
- ・どんな仕事でも「やり方」ではなく「あり方」が大切であり、人間性が養われている人でなければ結果はついてこないし、社会で相手にされないということを知った。
- ・自己分析をしてみて、自分の長所や強みを文章で表現するのは難しいと思った。この授業を通して、こういったことを身につけていきたい。

- ・体育会系の学生は就職に強いと言われ、とても心強く感じた。今まで頑張ってきたことが強みになる。もう一度自分を見つめて、自分が今までしてきたことを整理していきたい。
- ・文章を書くことは苦手だが、今日のワークをやって、自己PRを考えるのがとても楽しみになってきた。

(3) 4年生対象授業「キャリアサポート」の取組み

キャリアセンター・企業等就職支援室では、4年生(前期)の選択科目「キャリアサポート」を担当している。今期は「みんなで勝ち取る内定」をテーマに掲げ、内定獲得に向け、演習を中心とする授業内容で展開した。

たとえば、「面接練習」は4回行っているが、それぞれの回で演習方法を変え、幅広い視点で自己を振り返りながら就活を進められることに重点を置いた。

今期の受講者は17名で、この授業を通して就活への意識が高まった結果、3名を除き10月までに内定を獲得することができた(3名のうち1名は12月に内定獲得、1名は現在も就職活動継続中、1名は留年の可能性あり)。

(4) 求人票など管理への取組み

求人票については、下記3つの方法で管理し、学生はいずれの方法からでも同一の情報を得ることができる。

1. 室内掲示
2. 企業別ファイリング
3. Web掲載

①室内掲示について

学校に到着した求人票は、受理日を押印の上、最新のものが上に来るようコピーを掲示する。求人票は16の業種別に掲示するとともに、用紙の色によって求人年度を判別できるように工夫している。

情報の速さと見やすさを優先しているものと言える。

②企業別ファイリングについて

1企業につき1つのファイルへファイリングしている。掲示と大きく異なる点は、過去の求人票やパンフレットも見ることができる点である。情報蓄積を優先しているものと言える。

③Web掲載について

速さと手軽さを優先しているもの。

学内学生支援システム(GAKUEN)を利用してお

り、学生はユニバーサルパスポートから求人情報を得ることができる。GAKUENとは学籍情報管理システムのことであり、下記5つの機能を保有する。

- (i)入試
- (ii)就職（求人登録）
- (iii)教務
- (iv)校友会
- (v)学費

しかしこれまで、(ii)就職の機能はこれまで活用されてこなかった。

この度、就職機能を稼働させることにより、学生の就職活動支援を更に強化した。

『就職』は大きく下記3つの機能を保有する。

- (i)企業情報管理（企業情報登録）
- (ii)求人情報管理（求人票発送管理、求人票受納管理、求人情報登録）
- (iii)学籍情報管理（受験状況登録、進路状況登録、卒業生情報登録）

また、この機能を稼働することにより、下記2点の改善が期待できる。

1. 学生求人情報をいつでも得ることが可能
2. 全教職員と求人情報共有が可能

(5) 学内企業説明会の取組み

①学内合同企業説明会

3年生対象としては2013年2月15日（金）に、30社の参画を得て開催の予定（昨年実績25社）。採用または内定実績のある企業を中心に誘致し、卒業生または学生（4年生）もブースに同席してもらうことで、学生と企業との距離短縮を狙う。

4年生対象としては、2012年9月25日に15社の参画を得て実施。進路未決定者20名が参加し、1名あたりのブース訪問数は2.5社。

②学内単独企業説明会

3年生対象としては、2013年1～3月にかけて随時実施の予定。参画企業目標数は10社（昨年度実績9社）。4年生対象としては、5月以降に実施した。

(6) 学外合同企業説明会バスツアーの実施

早期に学生の就活意識を高めることを主目的に、以下のバスツアーを実施した。今期は、12月1日の解禁日が週末であったため、そこからバスツアーをスタート。全国の「就活生」の生の姿を見せることは、非常

に刺激となるものであったと推察できる。

【学外バスツアーの実施状況】

実施日	行き先	参加者数	ブース訪問 平均社数
2012年 12月1日、2日	Yahoo!ドーム (福岡県福岡市)	35名	1日目 4.6社 2日目 5.3社
2012年 12月22日	広島サンプラ ザホール(広島県広島市)	33名	4.7社
2013年 1月13日	インテックス 大阪(大阪府大阪市)	31名	5.3社

【バスツアー参加者の感想】

- ・就活スタートとして今回の合同説明会に参加できて、とても良い刺激を受けた。その会社の人から直接話を聞くことでイメージがしやすいし、その会社の雰囲気も感じられるのでいい経験になった。(福岡)
- ・どの学生にとっても初めての説明会だけど、他の人たちの意識や意欲が自分とは違うなと思った。もっと調べてから来ておけば、講演会など自分の為になる話を聞いたりできたと思い少し後悔した。でも実際に参加したことで気付く事が多く、収穫もたくさんあった。(福岡)
- ・直接企業の人のお話を聞くことでHPやパンフレットでは得られない情報を知ることができた。どの企業にも共通して言えることは仕事を楽しむことと、仕事を通して自分を成長させることができるということ。そして、ほとんどの企業が「人物重視」と言われていた。これまでの経験が役に立つ時だと感じている。しっかり今まで自分がやってきたことをまとめ、伝えられるよう練習したい。(広島)
- ・思ったよりもたくさんの方がいて、正直驚いた。しかも多くの学生がかなり高い意識を持っていて、それが格好からもメモからも感じられた。環太平洋大学内だけにいるのでは世間の流れというのをきっちり把握しきれないということに気付いた。(広島)
- ・今日の合説までやりたいことがなかったが、いろいろな分野に興味が出てきた。これを機に企業研究をしていき、自分が本当にしたいことと合わせていきたい。(広島)
- ・今回は、4回目の合同説明会であった。話の聞き方が大分わかってきた。どこの企業も積極性や自律性を持っている学生を欲しがっている。また、向上心

という言葉もよくきく。上手く自分をアピールしている学生もいるので、会社の説明だけでなく、上手い学生のテクニックなども盗んで、これからもっと自分も売り込んでいきたい。(広島)

(7) 相談対応

日々の業務において、もっとも比率が高いものとして学生への相談対応が挙げられる。相談内容としては、「自分がどんな職業に向いているのかわからない」「何から手をつけていいのかわからない」といった初歩的なものから、具体的なエントリーシートや履歴書の添削、面接指導など多岐に渡る。

キャリアセンター・企業等就職支援室には、キャリア・ディベロップメント・アドバイザーの有資格者が常駐し、単に就職活動の技術を伝えることに終始せず、学生自らが考え、動き、将来に向けて本人が「納得のいく」進路を選びとることができるよう留意している。2012年4月以降の相談件数は、のべ1,246件(2013年1月9日現在)。3名の職員が対応に当たっている。また、今期より各学科の教員が交代でキャリアセンター・企業等就職支援室に在室し、各学科特有の就職相談に対応する可能性を探った。

5. まとめ

就職支援は、キャリアセンターだけで完結するものではない。キャリアセンターに来室する学生のみへの対応では、来室しない意欲が低い学生への支援までは至らない。故に、マスの支援体制と個別支援体制の2本立てでの支援が必要である。また、学生は学部所属しており、学部教員との連携は必須要件である。本学の特徴は、学部教員をキャリアセンターの相談員として週5日配置し、相談体制を敷いていることである。これにより、学生とキャリアセンターをつなぐ役割を担うだけでなく、学部とキャリアセンターをつなげる役割も果たすことができる。結果として、キャリアセンターに来室せず就職活動を始めていない学生や停滞している学生を抽出し、連絡を取り個別支援に当たることができている。就職活動は、学生達にとって、大変大きな障壁であり、不安意識が高い。一度大きな壁にぶつかると立ち止まってしまう学生も少なからずいることから、学部との連携は今後さらに重要になるのではないだろうか。

現在の、キャリアセンター・企業等就職支援室は、今年度より開設された。現体制が整って以来初めて、

いわゆる「就活早期」の時点から関わるのが可能になったのは2014年卒業の現3年生であり、そういう意味ではここから真価が問われることになると思う。

今期は、「翔志会」の開始、情報の整備など新しいことに取り組んだ。まだ、3年生の結論は出ていないが、学生が主体的に就職活動に関わるための支援体制が整備されつつある。「活動」するのはあくまで学生本人であり、キャリアセンター・企業等就職支援室としては個別対応を徹底しつつも、学生が「よりかかる存在」ではなく「ひとり立ちを支援する存在」になることを目指していく。「就職率100%」を目指すと同時に離職率を低下させることは、ひとり一人の学生の「キャリア」として望ましいのではないだろうか。